



取締役 常務執行役員
児玉 展全
Nobumasa Kodama

地球環境に貢献する製品技術

近年、地球温暖化に起因していると考えられる集中豪雨や気温の上昇などの異常気象が発生して、日本においても、豪雨、洪水の発生により多くの被害が出ています。異常気象など、社会的な生活に関わる身近な環境問題も地球環境問題の一つにしか過ぎず、地球レベルの環境保全という観点では取組むべき多くの課題があります。地球環境の問題は人類だけでなく、地球資源と地球に存在する全ての生態系に影響を及ぼすことになります。

我々を取り巻く地球環境問題を挙げると、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、資源の消費、大気汚染、海洋・水質汚染、廃棄物処理、生態系への影響、エネルギーの枯渇などがあります。いずれの問題も主に人類の活動に起因しており、人類の快適性、利便性と密接に関係しています。

現在、地球環境を保全することの重要性の意識と保全活動は、企業だけでなく、我々個人にも求められています。当社は「社会や環境に対しては、企業活動を通じて、地球環境の保全および人類の繁栄に寄与する経営をします」と、環境保全についての考え方を明確にして、地球と共存する企業グループとして地球環境保全への積極的な活動を行っております。環境保全活動の中でも、製品技術においては、①地球環境を守るための技術、②人の健康と安全を守る技術、③新しいエネルギーの活用と省エネルギーのための技術の3つの技術をベースに、新技術、新製品の開発に取り組んでおります。

クーリングシステム製品、サーボシステム製品など、モータおよびモータ制御技術をベースとした製品においては、小型化、より高い性能、消費電力が少なく、長寿命で、多数の機能を盛込むなどの製品開発、技術開発を行っております。パワーシステム製品の無停電電源装置、太陽光発電装置など、電源および電気変換技術をベースとした製品においては、小型化、高い効率、消費電力が少ない製品開発、技術開発を行っております。なかでも太陽光発電装置は、自然エネルギーを直接利用する製品として環境面で今後さらに注目される製品であります。

製品の開発段階においては、廃棄時のリサイクル性を考慮したり、ライフサイクルアセスメント（LCA）を実施して環境や資源に与える各種の負荷を製品のライフサイクル全体にわたって定量的に評価する活動も推進しております。環境面で一定の社内基準を満たす製品は環境適合設計製品「エコプロダクツ」として認定され、毎年数多くの「エコプロダクツ」が製品化されております。

このように、当社が環境に少しでも貢献する製品開発を行ない、お客さまが当社の製品をご採用いただくことが、お客さまの環境活動へつながり、最終的には直接的あるいは間接的に地球環境への負荷を増やさない活動へつながることを目指しております。

当社は、地球環境に貢献する製品開発が、企業を支える重要な活動と位置付けて取り組んでおります。当社の技術・製品開発などのマイルストーンを記録する本誌も22号を数え、本号は地球環境に関する特集号として地球環境に貢献する新技術、新製品の紹介がなされております。これらの技術、製品が地球環境の保全につながることを確信しております。これからも当社の環境への取り組みにご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。